

代表からのご挨拶

サンライズ・メイト・バート株式会社
代表取締役 井上 明美



いつも皆様方には、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

落ち葉が風に舞う季節となりました。冬はもうすぐ

そこまで来ているようですね。アメリカ合衆国の大統領選挙の結果に驚いたのは私達だけでしょうか。人間は言葉という武器を持っています。国際情勢も話し合いで解決できない事はないと信じて止みません。戦争体験国としては何時までも平和な暮らしが守られることを心より願っております。寒さ厳しいおり、くれぐれもご自愛ください。

サンライズの物語

「一度は入浴させてあげたい」という一途な想い。
ご利用者様と紡いだ絆の物語。



その方はご両親二人、夫を見送り、女手ひとつで二人の子供を育てたとても意思の強い人でした。

在宅酸素療法をしても自分でできる事は何でもされておりました。

日増しに体調が悪くなりベット上の生活になってしまい、連日、訪問診療、訪問看護が訪問して看護をしてましたが意識レベルは低下するばかりで経口からの食事摂取もできない状態に陥ってしまったのです。

ただ、その方が口にした言葉が「お風呂に入りたいなあ」。そこで訪問入浴の手配をいたしました但し血圧が低下してしまい中止となってしまいました。

私達介護職、訪問看護、訪問診療の先生も「一度は入浴させてあげたい」との一途な願いとなりました。

訪問入浴の方々も時間帯を変更して何とか血圧の安定している時に入浴をさせたいとの思いの中、その時はやってきました。

訪問入浴の職員から、「入れました。ご本人様から『気持ち良かった。』と言って頂きました」との報告を受け喜んだのも束の間・・・

次の日に夜間訪問介護が訪問すると急変しており訪問看護が駆けつけ暫くすると息を引き取ったとの事。

永遠の眠りについたのでした。

後日娘様より「母が最後にお風呂に入れて嬉しかった。有難う御座います」との感謝の言葉をいただきました。

長年住み慣れた安心できる我が家で最期を迎えることが、その人にとって一番しあわせなことだったのではないかと感じた瞬間でした。

「介護するからだ」 (医学書院刊) 著者：細馬 宏通

人間行動学者がベテランワーカーの「神対応」をビデオで分析したところ、学問的な観点からは驚くほど複雑な相互作用が関わっていることが明らかになった。一貫して言えることは介護とは一方的に施すのではなく、相手をナビゲートすること。食事やベッド、入浴の介助、レクリエーションの時間におけるありふれた出来事が、研究者にとっては驚愕の光景になる瞬間をユーモラスに切り取った一冊。



NEWS 今月のニュース

訪問介護ならぬ訪問蚕 桑育て餌やり掃除も

介護サービスを受ける高齢者が、訪問介護ならぬ「訪問かいこ」を楽しんでいる。卵からかえって10日ほどの蚕が施設を“訪問”、高齢者が繭になるまで飼育することで生きがいを見いだすプロジェクトだ。仕掛けたのは東京や岩手、山口など各都県で介護事業所を運営する社会福祉法人・夢のみずうみ村。繭は化粧品メーカーに高値で買い取ってもらうことで小遣いにもなる。養蚕業が衰退する中、全国の高齢者に広めることで養蚕の復興を目指す。

「桑の葉にむしゃぶりつく蚕がとてもかわいくてね」。繭を手渡す渡邊久八さん(79)は顔をほころばせた。渡邊さんは、東京都世

田谷区の老人ホーム「夢のみずうみ村新樹苑」の入居者で「訪問かいこ」チームのリーダーだ。

蚕の飼育が始まったのは10月上旬。卵からかえって8~10日たった3齢の蚕を預かり、繭になるまでの10日間、一日も欠かさず世話をした。餌となる桑の葉は、施設の中庭に置いた120個のプランターで栽培。葉を摘んで蚕にやり、飼育箱を掃除した。蚕はぬれた葉を食べないことから、雨の日は葉の表面をタオルで丁寧に拭いた。飼育する70匹のうち55匹が繭を作った。(中略)

高齢者が蚕を飼育し、繭まで育てる「訪問かいこ」プロジェクトが始まったのは2015年。同法人理事を務める藤原茂さん(68)が、全国で放棄された桑畑が多い

ことに着目、「桑をむしゃむしゃと食べる蚕はエネルギーの塊。犬や猫よりも手間がかからないし、生き物に触れることで癒やしにもなる」とひらめいた。山口市の介護事業所で試しに高齢者に飼育してもらったところ、「朝夕の桑の葉摘みや餌やりなどの作業が生活に張りを与え、繭ができた時の充実感は生きがいにつながっている」と手応えをつかんだ。



<日本農業新聞 2016年11月3日(木)>



今月の名言

雨？僕には太陽が明るく輝いて見えるよ。

ドン・ロックウッド (映画「雨に唄えば」)

映画、「雨に唄えば」から抜き出した一言。有名な俳優だけれど人間関係に悩んでいた主人公が、恋の喜びに歌い出す場面です。雨が土砂降りだろうと構わず思いっきり踊るシーンには、思わず聴く人の心も踊る名シーンです。

広報誌「ライジング・サン」のバックナンバーは、弊社ホームページでもご覧いただけます。

ぜひお立ち寄り下さいませ。 <http://www.samaba.jp/back-number/>